

季刊 まち・コミ

2013年 春号

● インフォメーション ● <http://park15.wakwak.com/~m-comi/>



今月の注目記事 P1 東日本活動報告(2013年春) - 神戸での学びを東日本で活かす -

東日本活動報告(2013年春)

- 神戸での学びを東日本で活かす -



作業をご一緒させていただくことで、海の仕事や雄勝での暮らしを知る。

これまでの経験と学びを基に東日本大震災の被災地でも、雄勝町の住民と関わりながら地域の応援をしています。

震災から2年を経、各被災自治体では、復興計画策定や復興事業に向けて具体的に取り組んでいます。そんな中、地域の人口流出が課題にあげられていました(NHK 仙台18:00の地元ニュース)。



石巻市雄勝町では、2012年12月の意向調査によると、震災前の36.0%しか人口が、戻らないようです。

まち・コミは、このような状況で地域を運営するために、地域住民が“自分達でできることは何か”を見つけ、自ら動く復興まちづくりを目指し、まずは状況を把握・共有し、そして戦略をたてる必要があります。そのための一つの方法が、地域の資源に目を向けることでしょう。

2012年3月から宮城県石巻市雄勝町に行き、この一年(現地滞在日数235日)を活かし、まち・コミは、地域資源に目が向けられるよう調査や情報収集を行いました。今号では、その様子をご報告します。

目視調査

地区の全体像を把握するために、まち・コミは、住宅地図を持ち、地区を周り、町内全体の建物被害の有無や自力仮設の建設状況を調査しました。

そこから“残っている資源（人、建物、海、文化等）は何か？”を把握しようとしました。



目視でわかったことを記入した住宅地図。

住民会議に出席

雄勝地区住民有志の会議に6回参加しました。会議に参加させて頂くと、どのような立ち位置で、どのような想いを持っている方がいらっしゃるのかがわかります。また会議では、人的資源と出会います。“まちに残り、話合いの当事者になれるのは誰か”を把握しようと努めています。まちづくりの相談を受けることもあります。そこで知り合った人へ地域生活について、聞き取りをさせていただきます。漁村の会議や住民説明会等にも出席した。

周辺の状況も把握するため女川町竹浦地区の会議に8回参加し、そのほか仙台市若林区荒浜等、周辺地区の会議にも参加しました。

聞き取り調査

住民にとって、生活経験は身近にあるものなので、それを生活再建に活かしたいはず。住民等から、生活史や地域の歴史等について、ヒアリング調査をしました。震災前の生活を知ること、地域の資源が把握できます。

外部者が来て、地元の方のお話を聴く場合、その方にとっての常識であることが理解できていなかったり、初対面では緊張感があり聴きたいこととお話していただけないことがあります。そんな時は、“共に汗を流すこと”を大事にしました。漁師と共に作業（約40日）をしました。体験は、頭ではなく五感に入ります。その体験により、漁師と、数値データと時期データを共有できます。同じ時刻に共に作業をした信



年代や出来事を記入する聞き取り表を作成し、お話しの内容を記入しています。

聴く側のまち・コミは、震災前の生活や海のことにはわからないことばかりですので、1つの質問をするのに3日かかる等、調査項目の準備（聞き取り表等）に苦戦もしました。その聞き取りの時には、年号等では覚えていないので、こちらで年表をつくり、「が開通した日」「子どもが生まれた年」等で、答えられる方のお話を年表に落としていきました。町史やそれにまつわる近代史も読みました。

頼関係から、本音を聞き出せることがあります。

「震災後、被災体験を聞く人はいたが、私の父の代までさかのぼり聴いてくれる人はいなかった。」と、喜ばれ、津波でも流されず残った写真を出してきて、地域の方々に漁船の進水式を祝っていただき、地域で支え合った様子をお話しくださいました。

聴き取りにより、地域の生活変遷史を住民と共有し、地域の立ち位置を共有し、今後のまちづくりを住民のみなさんが考える材料づくりをしていきたいと思っています。



漁船に乗せていただき、海の仕事を体感しました。

【参考】 ご入り用の方は、まち・コミまで

・宮定章：被災地の生活再建と復興まちづくりの現状と葛藤

東日本大震災石巻市雄勝町における防災集団移転促進事業を事例として
(日本住宅会議 第86号 2012.10 p18-19) <http://xfs.jp/VIFFT>

・「外部者」が復興に果たす役割は？

- 一人でも多く元の町に 住民意見の反映手助け - (神戸新聞 2013年2月18日)

・まち・コミブログ 東日本大震災 <http://machicomi.blog42.fc2.com/blog-category-35.html>

【お知らせ】

パネラー出演

復興まちづくりと住民合意形成の実態【東日本大震災3年目】日本弁護士会

<http://www.nichibenren.or.jp/event/year/2013/130413.html>

まち・コミの
神戸でのまちづくり



阪神・淡路大震災からの復興過程で御蔵地区では、復興における被災住民の主体性が必要であると感じたことから、住民が主体的にまちづくりに関わることで、住民同士の交流を図りながら愛着が持てるまちをつくることを目標にしました。その活動を、まち・コミは支援してきました。

まちづくり協議会による復興計画策定段階や生活再建では住民の意見が計画に反映するよう支援し、ハード面では工事を業者まかせにせず素人でも関わられる工程には参加する機会をつくり、イベントなどのソフト面では一人でも多くの人が気軽に関われるよう工夫し、参加を呼びかけました。

まちづくりの各場面で外部からのボランティアが大勢関わり、あらゆる立場の人を巻き込みながらまちづくりをしてきました。

まち・コミ news



2012年度活動報告

12月20日にNPO法人を設立いたしました。設立後は通信誌「季刊まち・コミ」やメールニュースにて、賛助会員ならびに支援者のみなさまへのごあいさつをし、神戸市役所等への書類提出など、設立後の手続きを行いました。また、各事業につきましても、事業の実施や打合せをいたしました。

12月末に初年度を終え、1月19日に理事会及び総会を開催いたしました。ここでは主なものをピックアップして、ご報告いたします。(詳細はホームページにてご覧いただけます)

●まちづくり部門

・被災地復興支援事業

12月21日から30日まで、東北出張所(宮城県石巻市)を拠点に活動。12月23日には女川町による住民説明会に参加しました。また、調査専門家と牡鹿半島にて調査の準備や地域の広報誌の配布支援を行いました。

●学びの場づくり部門

・まちづくり勉強会事業

2013年度以降の企画について話し合い、1月19日の総会后に、当日出席できる理事を講師にNPO法人設立記念講演会を開催することにしました。

●交流の場づくり部門

・地域間交流事業 および 国際交流

2012年度活動計算書(簡易版)

2012年12月20日から12月31日まで

【特定非営利活動法人まち・コミュニケーション】

(単位:円)

科 目	金 額	
I 経常収益		
1. 受取会費		
正会員受取会費	100,000	
賛助会員受取会費	45,000	
購読会員受取会費	0	145,000
2. 受取寄付金	179,000	179,000
3. 受取助成金等	0	0
4. 事業収益	0	0
5. 雑収益	0	0
経常収益計		324,000
II 経常費用		
1. 事業費		
(1)人件費	0	
(2)その他経費	31,141	31,141
2. 管理費		
(1)人件費	0	
(2)その他経費	74,428	74,428
経常費用計		105,569
当期経常増減額		218,431
税引前当期正味財産増減額		218,431
法人税、住民税及び事業税		0
当期正味財産増減額		218,431
設立時正味財産額		0
次期繰越正味財産額		218,431

貸借対照表(簡易版)

2012年12月31日現在

【特定非営利活動法人まち・コミュニケーション】

(単位:円)

科 目	金 額	
I 資産の部		
1. 流動資産		
現金預金	218,431	
流動資産合計		218,431
2. 固定資産	0	
固定資産合計		0
資産合計		218,431
II 負債の部		
1. 流動負債	0	
流動負債合計		0
2. 固定負債	0	
固定負債合計		0
負債合計		0
III 正味財産の部		
設立時正味財産		0
当期正味財産増減額	218,431	
正味財産合計		218,431
負債及び正味財産合計		218,431

事業

2013年度に行う企画について話し合いました。

● 情報発信部門

・情報発信事業

①季刊まち・コミ

NPO 法人設立のご報告をトップ記事とし、6ページで冬号(2012年12月20日発行)を作成。賛助会員、最近出合った方など323名に郵送しました。また事務所でも来客に対し、配布をしました。

②WEBまち・コミ

任意団体のホームページを元に、

NPO法人に変更。団体名や組織概要の変更、ロゴマークの挿入のほか、活動を多くの方に知っていただくことを意識して、定款や事業計画書、予算書についてもご覧いただけるようにしました。

③まち・コミブログ

日々の活動を中心に、活動を報告しています。2012年度は12本の記事をアップ。また、ブログの内容はフェイスブックやツイッターへも転送し、多くの方の目に留まるようにしています。

④まち・コミメールニュース

NPO 法人設立のご挨拶として、2189名に送信。多数の方々からお祝いの返信メールをいただきました。また、このメールがきっかけで、NPO法人設立の経緯について神戸新聞社会部の取材を受けました。(添付資料参照)



2012年12月20日 神戸市よりNPO法人の認証を受けました

大地のつぶやき

〜 東日本大震災二年目に思う 〜

マスコミ各社こぞって復興の遅れが俎上に載せられていた。阪神・淡路大震災以来いずれの大災害でも復興、復興と叫ばれてきた。確かに以前のまちより災害に強いまちをつくらうというのは十分理解出来る。だがいきなり復興、復興というどうしても前よりもっと高い防潮堤や堤防を望む様になるし、高台移転一辺倒になってしまふ。如何なる人知を尽くしてもそれを凌駕する自然の力には叶わない。沿岸をまたもや巨大なコンクリートで固めてしまふのだろうか。彼の地の半島や沿岸の漁村を走っていると、何世代にも亘って海の生態系と人間社会の生活が共生して作り上げた素晴らしい光景は日本人なら誰しも郷愁を覚えずにはいられない。

神戸の被災者には圧倒的に借家人が多かったが、東日本では逆に持地持家の人が大半を占める。家が流された土地が海拔2m〜3mあるならば、復旧のため木造仮設を建ててもいいのではないか。もちろん並行して避難の手段を考えての上だ。そしてなるべく地元の木材を使い、地元の大工に建ててもらおう。お金が地元で循環することが大事なのだ。木造なら家族が増え、子どもが大きくなると増築も容易である。仮設住宅全戸の三分の一を減らし、その建設撤去費を元居た場所に仮設木造住宅を建てて人に充当することも考えてみたらどうだろう。自分の家をこう持ちたい、自分たちで間取りや家具調度品をこうしたい。ここにこんなものを置きたいと夢や希望を各自が持ち、少しでも近づけるその意欲こそ復旧復興を促す原動力になる。当地の共同住宅「みくら5」も設計段階で保留床を持たなくなり、当初予算から三割以上のアップになり、もはや頓挫と思われたが参加者全員が気を取り直して再び「やろう」となった。それは設計の武田先生と一緒に図面を何度も書いたり消したりしながら夢を描いたもの、即ち自己実現の欲求を満たそうとした以外の何物でもない。東日本にも被災者に希望と勇気とサムマネーが欲しい。

株式会社兵庫商会 田中保三

まち・コミ活動報告 12/20～2/28

- 12/20 NPO 法人設立
- 12/20【情報発信】季刊まち・コミ発行
- 12/22-30【復興支援】東北行き
- 12/27【講師派遣】宮崎県防災士研修 1
- 1/7-12【復興支援】東北行き
- 1/11【研修受入】福島県富岡町より
- 1/12【震災学習】下見受入
- 1/13【震災学習】こうべあいウォーク
- 1/17 阪神・淡路大震災慰霊法要
- 1/19 理事会・総会開催
- 1/19【勉強会】NPO 法人設立記念講演会開催
- 1/20【研修受入】東北より
- 1/21-2/7【東北復興支援】東北行き
- 1/24【研修受入】須賀川商工会議所(福島県)より震災体験学習ヒアリング
- 1/27【国際交流】麒麟の会
- 2/3【講師派遣】宮崎県防災士研修 2
- 2/10【講師派遣】被災地の今を語るこれからを考える(藤岡交流館講義室)
- 2/13 区民まちづくり会議出席
- 2/14【研修受入】京都大学防災研究所
- 2/17【講師派遣】宮崎県防災士研修 3
- 2/17【講師派遣】新池島自治会
- 2/18-3/1【復興支援】東北行き

ご支援、ありがとうございます。12/20～2/28(新規・継続) 順不同・敬称略

- 【賛助会員】中尾嘉孝(兵庫県) 小林郁雄(兵庫県) 増永理彦(兵庫県) 森倉幹氏(三重県) 佐藤友一(京都府) 松原永季(兵庫県) 宮下克己(兵庫県) 株式会社防災 & 情報研究所(東京都) 縄田房照(福岡県) 上田耕蔵(兵庫県) 尾崎裕子(愛知県) 佐藤美姿(埼玉県) 新川泰道(秋田県) 青田良介(兵庫県) 高田幸治(岡山県) 浅野宏(神奈川県) 森敏昭(兵庫県) みなと元町タウン協議会(兵庫県) 清水一郎(東京都) 藤原柄彦(兵庫県) 住田功一(大阪府) 藤村晴彦(兵庫県) 齊木崇人(兵庫県) 平田賢一(東京都) 熊田俊郎(東京都) 池田寛(香川県) 橋本正樹(兵庫県) 岸田圭位子(兵庫県) 西村峰二(兵庫県) 船木美子(愛知県) 玉井清山(長野県) 土井幸平(東京都) 佐藤道正(宮城県) 佐藤正子(宮城県)
- 【正会員】井上赫朗(東京都) 遠藤勝裕(埼玉県) 野崎隆一(兵庫県) 浦野正樹(埼玉県) 今田忠(大阪府) 田中貢(大阪府) 櫻井朝教(長野県) 大矢根淳(神奈川県) 田中保三(兵庫県) 宮定章(兵庫県) 戸田真由美(兵庫県)
- 【購読会員】保田茂(兵庫県)
- 【寄付】六ノ坪合資会社(兵庫県) 末正盛隆(兵庫県) 千葉桂司(奈良県) 鈴木八重子(兵庫県) 大久保周伸(兵庫県) 鉢村健(兵庫県) 幸田雅治(東京都) 石井肇(宮城県) 横山敦(福島県) 大久保清孝(兵庫県)
- 【協力】社団法人シャンティ国際ボランティア会(東京都) 株式会社兵庫商会(兵庫県神戸市) 味六亭(宮城県石巻市)

会員募集中!

認定NPO法人申請を目指し、より多くの方に賛助会費もしくは3,000円以上のご寄付をお願いしています。認定NPO法人になると、寄付者は税制上の優遇措置を受けることができますようになります。(正会員と購読会員は寄付者に含まれません)

さらに活発な活動を行うため、会員を募集し、資金面でのご支援をいただいています。

また、会員は1年更新とさせていただきます。現在会員の方も時期がきましたら、更新をお願いいたします。(期限は「季刊まち・コミ」郵送時の封筒の、宛名ラベルに記載していますので、ご確認ください。)

会員種別

賛助会員

当法人の事業を、会員として賛助してくださる方
年会費：5,000円(学生3,000円) 総会議決権：なし

正会員

当法人の目的に賛同し、ご入会くださる方
年会費：10,000円 総会議決権：あり

入会申込書のご提出をお願いしております。

購読会員

当法人発行の「季刊まち・コミ」購読希望の方
年会費：3,000円 総会議決権：なし

編集後記 NPO 法人になり、たくさんのお祝いメッセージをいただきました。改めて多くの方々から支えられて今日があることを実感し、感謝です。(戸)

お振り込み先

名称 特定非営利活動法人まち・コミュニケーション

【郵便振替】

口座番号 00950-3-42788

【三井住友銀行・長田支店】

普通口座 7669623

ご寄付もよろしくお願いたします

2013 年 3 月 31 日発行 no.2

編集 / 発行 特定非営利活動法人
まち・コミュニケーション

事務所 〒653-0014
兵庫県神戸市長田区御蔵通5-211-4-101(みくら5)
TEL 078-578-1100 / FAX 078-576-7961

東北出張所 〒986-0859
宮城県石巻市大街道西1-14-101 味六亭 相澤様方

e-mail m-comi@bj.wakwak.com
URL <http://park15.wakwak.com/~m-comi/>

ホームページからバックナンバーをご覧いただけます